

## 平成 19 年度 第 2 回 平塚市博物館協議会 会議録

### 開催日時

平成 19 年 11 月 6 日（火）10 時～12 時

### 開催場所

平塚市博物館 特別研究室

### 会議出席者（敬称略）

会 長 江藤 巖

委 員 伊東 幸子、加藤 幸子、庄司 一郎、立山 洋典、田村 壽

事務局 浜口館長、井上館長代理、明石館長代理 鷹館長代理、松本学芸員

### 会議の概要

#### 1 開会あいさつ

浜口館長：夏休みの「平塚周辺の地盤と活断層」の特別展は大勢の方に見ていただきました。そのあと美術館とタイアップしてプラネタリウムで「銀河鉄道の夜」を上映し、先日まで大賑わいでした。このあと、収蔵室のアスベストの除去工事を控えている、という状況です。

#### 2 会長あいさつ

江藤会長：本年度第 2 回の協議会ですが、協議員 6 名全員出席で会議が成立しました。では関連性のある（1）と（4）の議題から、ご協議をよろしくお願いします。

#### 3 議 題

##### （1）報告事項について

##### 1．入館者状況について

10 月までの 19 年度入館者数は 5 万 2975 人で、昨年度と比べ 4500 人ほど増えています。これはプラネタリウムの「銀河鉄道の夜」に拠るものです。

##### 2．4 月から実施した主な事業について

##### ア．寄贈品コーナー

自然・人文各部門の寄贈資料展、過去の公募写真展、平塚空襲展、万田貝塚展、博物館実習生制作“のぞいてみよう 原始の人々の暮らし”展、相模平野の微地形と地盤展を実施しました。

##### イ．プラネタリウムの投影について

観覧者数は合計 1 万 6379 人で、昨年度と比べ 4000 人ほど増えています。

##### ウ．全天周デジタル映像「銀河鉄道の夜」上映

美術館の「宮沢賢治展」とのコラボレーション企画として、全 118 回実施し、観覧者数は 8338 人という結果が出ました。プラネタリウム担当の学芸員が通常の上映回数をはるかに超える実施回数で頑張りました。大変良かったと思います。

##### エ．夏期特別展について

森学芸員担当の「平塚周辺の地盤と活断層」は、会期中の入館者数が 1 万 6833 人でした。関連事業の特別記念セミナー「相模平野周辺の活断層と地盤特性」は講堂の定員目一杯の 100 名を超える 138 名という参加者を断りきれない状況で、ともに過去最高の人数でした。図録も会期中に売り切れ、市民の方々からの強い要望で増刷し、現在販売中です。

##### オ．秋期特別展について

「第 7 回公募写真展」では優秀賞・入賞に加え、今回、審査員特別賞が設けられました。名倉信光さんというジャーナリストの方が昭和 20～30 年代の中郡を撮った多くの写真について、歴史的価値が高いということで受賞されました。

## カ．イブニング・ミュージアム・ウィークについて

夏期・秋期の2回、各6日間開館時間を延長し、様々なイベントを実施しました。夏期は博物館民家での怪談噺（楽志亭老生さん）など、合計354名の参加がありました。秋期は「平塚ミニ講座」と「天文の夕べ」の2テーマで、「平塚の活断層」の講座や天文講演会「惑星を持つ星の条件」（比田井昌英氏）など、市職員の方々にも呼びかけて合計101名の参加がありました。来年度も実施したいと思います。

### （４）今後の事業等予定について

- 1．第9回博物館まつり（2008年2月9日～24日）
- 2．春期特別展「水辺の楽校へようこそ！」（2008年3月15日～5月6日）

以上の通り、明石館長代理館長から資料にもとづき一括して報告した。

## （２）生物分野の長期事業計画（案）について

### 生物分野の調査研究活動の方針

平塚市および相模川流域の動植物について資料と情報を広く収集する。

平塚市内の動植物の分布については継続的に情報を収集し、市街地と丘陵地の比較を通じて、都市化が動植物相に与えている影響について分析する。

動植物に関心のある市民あるいは団体と連携して調査を進める。

### 過去の調査研究活動の主なテーマ

#### 学芸員が取り組んできた調査

1973年開始の“相模川および金目川水系の淡水魚類相”や“相模川河口干潟の鳥類調査”をはじめ、現在も続く“平塚市および周辺地域の直翅類相”、現在構想中の自然観察園の下準備としての“平塚市土屋地区の鳥ごよみと花ごよみ”の作成、“平塚市のオオタカ類の営巣状況調査”など。

#### 市民団体・他機関等と連携して進めてきた調査

神奈川県植物誌調査（同調査会・生命の星地球博物館他）、丹沢大山自然環境総合調査（県環境農政部他）、平塚市のキノコ類調査（神奈川県キノコの会）、平塚市のコケ類調査（湘南コケの会）、平塚市のホタル類調査（平塚市ホタル検討会・平塚の自然を守る会）など。

#### 市民参加によって進めてきた「みんなで調べよう」の調査

タンポポ調査、ツバメの巣調査、セミのぬけがら調査、カエル調査、カタツムリ調査など。

これらの調査結果については、特別展「平塚の生きもの地図」・「湘南のキノコ」といった形で市民の方々にご紹介しています。

#### 主なコレクション（資料）

##### 調査の過程で形成されたコレクション

##### 寄贈されたコレクション

それぞれ、まとまったコレクションができつつあります。これらのコレクションについては、『湘南植物誌1～6』・『動物資料目録1～2』・『キノコ類標本目録』・『吉川コレクション植物標本目録』・『府川コレクション シダ植物標本目録』などを刊行し、ご紹介しています。加藤あき氏寄贈の植物のスケッチについては、来年度の特別展でご紹介したいと思っています。

#### 登録資料点数

現在、動物・植物の合計11万4463点が登録されています。1973年、私が博物館準備室に奉職した際、平塚市博物館の生物部門唯一の資料がアオダイショウのぬけがらの標本1点だけでしたので、30年以上かけて多少の資料の蓄積が出来てきたのかな、と思います。

以上の通り、浜口館長から資料にもとづき一括して報告した。

#### 今後の活動予定

- ・平成19年度春期特別展「水辺の楽校へようこそ！」（2008年3月15日～5月6日）を開催予定。

- ・平成 20 年度春期特別展「加藤あき 植物観察画」(2009 年 3 月～5 月)を開催予定。
- ・「神奈川県植物誌調査」、「平塚市のキノコ類調査」、「平塚市のコケ類調査」、「平塚市のホタル類調査」の活動を継続する。
- ・「水辺の楽校生きもの調べの会」、「漂着物を拾う会」の活動を継続する。
- ・「自然観察リーダーの会」を新設し、自然観察会を運営するリーダーを養成する。新設の「自然観察ウォーキング」とリンクさせる。
- ・「自然観察ウォーキング」を新設し、下見などを行うことで自然観察リーダーを養成するための実践の場とする。
- ・相模川水系のミズダニ類調査や、コケ・キノコ・土壌動物などの観察会を開催予定。

以上の通り、松本学芸員から資料にもとづき一括して報告した。

### 〔質疑応答〕

加藤委員：イブニング・ミュージアムは去年夏に行われましたが、秋期としては初めてですか。参加人数が少ないのが残念ですが、担当学芸員のお話を聞くことができ素晴らしい試みだと思います。

浜口館長：特別展期間中の金曜日の開館時間延長を 10 年近く行ってきましたが、5 時以降の利用客が少ないため余り効果が無い状況でした。しかし普段利用しにくい方の便宜を図るという大原則を守っていくために、折衷案として期間を限ってイベントを設けて館を開けておくという形を考え、昨年夏にイブニング・ミュージアムを行ったところ、比較的大勢の方の参加がありました。今年度から機械的な金曜日の開館時間延長はやめ、その代わりに、このような夏と秋の一週間ずつを延長するイブニング・ミュージアムの形になりました。

加藤委員：素晴らしい試みですので、皆さんへの PR にも力を入れていただきたいと思います。

庄司委員：博物館と学校との関係が密接になり、明石先生の「相模国府～考古学の立場から～」の講演や、定例校長会のなかでプラネタリウムの「銀河鉄道の夜」上映など、大変ありがたかったと思います。宮沢賢治の企画は美術館と博物館との新しい試みでインパクトがあり、皆さん期待したとおりで喜んでいきます。今後もこうしたインパクトのある企画を続けていただきたいと思います。また夏期特別展のセミナーも大勢参加され、難を言えば会場は中央公民館のような広い施設が良かったかなと思いました。近年、気候変動や大地震が続くなかで、市民の大勢の方が「平塚はどうなんだろう」と心配されていて、こうしたセミナーなどで、平塚市の活断層について学術的立場からの議論を聴くことができ、わかりやすくて良かったと思います。

江藤会長：入館者数が増えた「平塚周辺の地盤と活断層」と「銀河鉄道の夜」は今年度の二大イベントでインパクトがありました。

田村委員：活断層や宮沢賢治など、博物館にせよ美術館にせよ、普段は重い市民の足を運んでもらうために、市民が一番関心を持っているものを展示すると、来館者が増えるということが良くわかったと思います。美術館でも、みんな賢治の手帳一冊を見るために来ていました。こうした関心を集める一点を嗅ぎ分け、市民の方の要求に対応した特別展ができればいいなと思いました。

江藤会長：そう言う意味で、今後の松本さんの「カエル調査」なども、環境がどう影響するかという点で市民も関心があると思いますので、ぜひ頑張ってほしいと思います。

立山委員：活断層の特別展ですが、市民だけではなく、専門家の方も関心を持って来られたのでしょうか。また、生物調査研究で、最近温暖化による生物相の変化が顕著だと思うのですが、長期間の調査の視点として、地域的に見えてきているのでしょうか。

浜口館長：活断層の特別展ですが、専門家の方々が観に来られていたのか、アンケートを取っていないのでわからないのですが、市民の方々の個人的な関心が大きかったように思います。地盤図なども刊行しましたので、それらの情報提供は専門家の方にも役立ったと思います。一つ印象的

だったのは、活断層等の情報提供に対し、行政に向けての苦情などもなく、見られた方の多くが冷静な受け止め方をされたことです。今回の情報は市役所にも提供していますので、防災等の面でも生かしてもらえるといいなと思います。また、生物の調査研究ですが、現在、動植物の変化の大きな話題として、温暖化の影響、外来種の広がりがありますが、これまで調査した中で、外来種の動向はタンポポ・カタツムリなどで把握できたと思います。なお温暖化に直接関わる動向として分かっているものは、クマゼミの分布の広がり、これは「セミのぬげがら調査」に拠るものです。この30年間で新たに広がった種類について、組織的な情報収集がまだ不十分なので、今後の課題と言えます。

### (3) 使用料等の見直しについて

浜口館長：現在、平塚市役所全体で財政健全化を進めるなかで、使用料・手数料を見直ししようとしています。一つには業務のコストを正確に把握しよう、もう一つは把握したコストをふまえながら受益者負担の考え方も入れつつ全体的な算定基準をつくろう、さらに、その算定基準に基づいて料金を是正していくなかで、例外となるものは、その理由を説明できるようにする、といった形の話がまとまりつつあります。この問題を検討していく方法として、今日は皆さんから全体的な感想・ご意見をいただければと思っています。今後、市役所から、全体基準に基づいた具体的な数字が示された段階で、江藤会長とご相談し、そのうえで3月の協議会で答申案をお願いできれば、事務局としては大変ありがたいと思っています。

現在の状況を申しますと、観覧料のうち、入場料は無料、プラネタリウム観覧料は100円で小・中学生は無料、特別展はここ数十年は無料ですが、条例上500円は徴収してもよいという規定があります。使用料は、特別展示室は1日6000円、講堂は1時間500円、茶室は1日9000円、半日の場合は4000円～5000円、という規定になっています。また講堂等は市外の方は1.5倍の規定になっています。今、市役所全体で検討しているのは、現在有料のものについて、その金額が適切かどうか見直しすることが基本です。ただし全体的な流れとして、無料のものをこれから見直すことも考えられます。ご意見をいただきたい内容として、入場無料の方針を今後も続けるか、プラネタリウム観覧料は見直しが必要か、また小・中学生無料の原則はどうか、部屋の使用料は見直しが必要か、の大きな3点があります。

江藤会長：忌憚のない率直なご意見をお願いします。

### 〔質疑応答〕

田村委員：今まで実際に特別展示室・講堂・茶室の貸し出し例はありますか。

浜口館長：実際には年間数回あるか無いかという程度で、ほとんど収入になっていませんので、値上げしても影響が無いと思います。茶室は高すぎるという声も耳にしています。

立山委員：たとえば秦野・伊勢原などのプラネタリウム等の料金はどうなっていますか。

江藤会長：伊勢原は公民館などの公共施設は有料ではないかと思っています。

立山委員：プラネタリウムは個人も無料ですか？

鷹館長代理：中学生以下は個人も団体も無料です。

立山委員：個人も無料となると、市外の人も無料（は適切かどうか）？ということも出てくるかもしれませんが、県の施設での経験上、不特定多数の人が目的意識が無く入ってくるといった、無料の弊害もあります。全体の入場料も、特定のイベント期間だけは無料という形にすると、別の意味で集客力が出来てくるような気がします。

鷹館長代理：プラネタリウム観覧料の小・中学生無料化の経緯は、学校に週五日制が導入された段階で、当時の文部省から子供達の受け皿を各自治体で用意なさいということで、こうした社会教育施設では青少年センターなどに習って無料化になったと理解しています。市外の子供達についても、同じ県内の子供達への配慮として、一律無料の扱いになったのだと思います。それ以前は市外の小・中学校、幼稚園の団体は一人50円、一般の団体は一人70円で有料でした。全県

的なその後の状況について調べておく必要があると思っています。

立山委員：県の青少年センターでも、そういう通達に対応しました。青少年センターは予算配分上の影響が無かったので問題がありませんでしたが、収益に応じた予算配分、というような影響があるのか、ちょっと心配です。

浜口館長：入場料を仮に有料にした場合、取返してまた博物館に行ってみようとする方が相当減って、現在7万人ほどの入館者数が半分くらいになってしまうのではないかと心配もあり、無料のままでもいいというのが本音です。また、田村さんをはじめ展示解説ボランティアの方の常駐もあり、展示への悪戯や落書き等、入場料無料による大きな弊害は表れていません。なお、予算との関係ですが、一定の収入が見込めれば、その金額を予算のなかで増やすことも可能ですが、取返して収入を期待するよりは、大勢の方に観ていただいたほうが良いのかなと個人的にはと思っています。

加藤委員：個人的には、雑貨団など外部の団体の公演は有料でも良いのかなと思いました。入場料は無料でも、特別展は200円～300円など、有料化することも考えられるのではないのでしょうか。博物館法の原則無料の方針を大事にして入場料無料で良いと思いますが、市から出た基準に対して、その方針が通るのかどうか。もし有料にしなければいけないという場合、例えば大人は初回だけ入場料有料にしてカードをお渡しし、その後は一年間自由に観覧できるようにすることなども考えられるかなと思います。

浜口館長：入場料無料について現段階で役所から指示が来ているわけではありません。図書館は図書館法で一切有料化できませんが、博物館は無料が好ましいという規定です。平塚市博物館は図書館と隣接して立地していることから、一体的な役割をしているということで無料の方針の説明はできると思います。今後、入場料を取るべきという方針が出てきた場合、一つの選択肢として考えたいと思います。また有料化した場合、人件費もかかりますので、マイナスにならないよう考えなければいけないと思います。

江藤会長：個人的には入場料無料で良いと思います。プラネタリウム観覧料などは値上げしても良いと思います。公的機関は受益者負担の精神を強調したほうが良いと思います。また何でも一律料金ではなく、きめ細かに設定する必要があると思います。

鷹館長代理：イベントについて有料化することにやぶさかではないのですが、実は無料化することで、音楽や著作権などに関わる手続きや費用などが抑えられているというメリットもあります。逆に有料化することで商業ベースに乗る形にされ、料金が、無料からボンといきなり跳ね上がることが考えられます。ジャスダックなどは、教育施設であっても有料であれば商業施設と何ら変わらないと主張してきますので、使える音楽もどんどん狭まってきます。有料化で自分たちの首を締めることにもなりますので、ケースバイケースで、こちらの裁量権を保てるようにすることが必要だと考えています。

伊東委員：使用料については、市役所の方針が必要であれば、多少高くなっても良いかと思っています。雑貨団のように外部から招く公演については多少の料金をいただいても良いかとも思いますが、窓口などの事務的な人件費が増えることは博物館として避けて、現状維持でやっていただきたいと思っています。立山委員：料金設定はきめ細かくして、受益者負担を、との考え方に基本的には賛成なのですが、ただ現実問題として、窓口の人件費の問題や、プラネタリウムなどの別々の料金に対応する高額な自動券売機のコスト等を考えると、こういう施設ではなるべく簡潔にする、というのが仕方の無い現実だと思います。

庄司委員：学校関係で利用する場合、秦野・伊勢原の施設ではほとんど無料のケースが多くて助かっています。できれば今のまま、ある程度までやっていただくと助かります。

田村委員：使用料ですが、業者が施設を借りて物品販売に及んだり、また博物館活動にふさわしい活動内容に見えても、中で金を取る事例もありますので、対応策を講じておくことが必要だと思います。また有料化ということは軽々に論じることのできない難しい問題ですので、博物館を運

営して行くからには博物館自身を守るためにも、何でも受け入れるのではなく、入場料無料の方針の考え方を通すことで良いと思います。

浜口館長：たとえば政治・宗教団体の使用はだめ、という制約などがありますので、しっかり確認したいと思います。

江藤会長：公民館でははっきり示されていて、宗教・政治・営利目的の使用はだめです。博物館で提供されるような知的財産はお金で買うもの、というような考え方が広まれば、有料化も理解されると思うのですが。

田村委員：県立歴史博物館でも実際にお金を払っている人は二十数%で、年齢的に無料で入れる人がほとんどではないでしょうか。有料化しても収益は微々たるものではないかと思うのですが。

浜口館長：それでは、いろいろなご意見や役所の動きも勘案しまして、3月にはしっかりした資料をお見せできるようにしたいと思います。よろしくお願いします。また無料の方針について、根拠の出典等も明らかにして、しっかり研究したいと思います。どうもありがとうございました。

#### **(5) 協議会の開催予定について**

3月26日(水) 予定

#### **4 その他(意見交換)**

浜口館長：お願いしております協議会の委員の任期が2年ということで、次の委員の選定について、またご相談させていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

加藤委員：社会教育研究の全国集会に参加してまいりました。博物館分科会に出席したのですが、平塚市博物館は教育普及活動について皆さんから高い評価を受けていました。平塚市博物館の存在の大きさを改めて感じました。学芸員の先生方のご努力の成果だと思い、ご報告させていただきました。